

嬉望

第12号
平成27年3月23日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



御修了おめでとうございませす!

月日の経つのはほんとうに早いもので、気がつけば3月、そして平成26年度の修了が目前となつていきます。

二年間、仲間と過ごした学び舎から巣立つ春に16名の修了生は何を思うのか。今年度、最終号となりますこの度の「嬉望」は、そんな二年生の想いと、大学の先生方や一年生からの贈る言葉で綴ります。

二年間の学びを支えていただいた皆様並びに派遣元の皆様方、誠にありがとうございます。今後は、各地においてそれぞれの学びの成果を還元して参ります。どうか、今後とも引き続き、温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。

「送辞」

一年生代表 柳井崇史

御修了おめでとうございませす。早いもので、お会いしてからもう一年が過ぎようとしています。私たちは、皆様方の背中を見ながら、学びを進めてまいりました。課題研究では、本質をついた質問や指摘をうけたことを思い出します。自分たちは懸命に質問に答えることで鍛えられ、少しずつですが成長できたのではないかと思います。ありがとうございます。また、仲のよい皆様方の関係が古川のいう「創発のチームワーク」*という最高の状態にあると改善プラン発表会の時に感じました。校種や年齢を超え、知的な相互刺激を与え、練り上げの後に発表されたプランには、「すみみ」さえ感じました。自分たちも、皆様方に負けないような創発的な仲間になろうと思います。いよいよ大学院での学びを現場にもどすときがきました。フィールドワークで、職場にお伺いすることがあるかもしれませす。そ

の際は、あたたかな受け入れをよろしくお願いたします。最後に、皆様の今後益々のご活躍を心よりご祈念いたします。

※古川久敏『チームマネジメント』日経文庫2006



「贈る言葉」

学校経営コース教員より

浅野良一 教授

二年生の皆さん。修了おめでとうございませす。

これから、配属された学校や教育委員会で学修の成果を発揮してください。本コースの修了生には、残された時間は多くありませす。いきなり第四コーナーです。ゴールめがけて、駆け抜けてください。そのためには、「悩むな。考え

ろ!」「あわてるな。急げ!」のままにするな。変えろ!」の言葉を贈ります。

過ぎてみれば、二年間はあつという間、たつたと思ひます。その学びや経験を思い出しなしないで、確固たるノウハウとして活用することを期待しています。

兵庫県、鳥取県、山口県、北海道、秋田県、京都市、神戸市の管理職研修でお会いしましょう!

日渡円 教授

修了おめでとう。

兵教での二年間の学びはどうでしたか。学校現場では経験できない圧倒的な時間と、異なる価値観との遭遇。その全てがこれからの学校現場でいかされることと思ひます。

私も、学校経営コース四年。新コースを設立し異動しますが、学校経営コースを皆さんと共有できたことは幸せでした。ありがとうございます。

皆さんの今後それぞれの現場でのご活躍を祈念し、また、ともに学び続ける同志としてお礼申し上げます。

祈る。イノベーション!

大野裕己 准教授

晴れて教職修士(専門職)の学位を授与された皆様に、心よりお祝い申し上げます。

皆様が在学された2013-14年度は、日本の地方教育行政・学校経営(1998年・2005年の中教審答

申に基づく地方分権路線)が岐路を迎えた時期と重なります。実践志向をもつ教職大学院にあって、皆様は理論・研究の学びも熱心にされ、それらを複雑性の高い教育現場に応用し具体的な前進に繋げる技法を習得されました。今後、その技法をもとにそれぞれの現場でご活躍されることを祈ると同時に、変化する教育行政環境下で地域の学校づくりの「思想(ビジョン)」を紡ぐ力量・視野も高めていくこと(しかるべきTPOでその点の役割行動を果たしていくこと)を強く願ひます。

安藤福光 准教授

皆様、ご修了おめでとうございませす。

皆様との二年間は、現場を知らない小生にとって非常に有意義な勉強の時間となりました。感謝申し上げます。

色々な思い出がありますが、奈良の学校訪問懐かしいです。学校訪問自体は大雪のため中止となりましたが、荒天の中集合してしまつたメンバーで食べたお昼ご飯、未だに忘れることができません。また宮崎県の学校訪問では夜中までカリキュラム論で盛り上がりましたね。非常に楽しかつたです。

今後とも末永くご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

「修了にあたって」

(二年生答辞)

青山武司

(山口県大島郡周防大島町芝賀小学校)

浅野先生、日渡先生、大野先生、安藤先生をはじめ、多くの先生方にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

「これから二年間か・・・」と不安な日々を過ごしていた入学当初。聞き慣れないカタカナ言葉に戸惑い、全く通用しない、これまでの固定概念からの脱却にもがきながらの二年間。しかし、この二年間で素晴らしい「宝の地図」を手に入れることができました。

また、力不足のコースの代表。大変ご迷惑をおかけしました。でも、皆さんのご協力や温かいご支援により、無事終了できました。「兵教びかぴか大作戦」など突然のお願いごとでも、快く引き受けてくださいました。

4月からはそれぞれの地で、思う存分力を発揮し、子どもや先生方・地域のリーダーとして頑張りました。

皆さん、本当にありがとうございました。

大藪二三雄

(神戸市立大池中学校)

光陰矢ののこしとは言いませうが、瞬く間の二年間でした。入学当初の想いの如何ほどを果せたか振り返ったとき、正直心残りの多い取り組みで溢れています。「あそこ」に視察に行きたかったです。

た、この学会に出たかった。」などのお決まりの後悔に苛まれています。

しかし今、自分の本棚には、当初には全く興味もなかった分野の本が並んでいます。また自分の力だけでは集めきれなかった資料も山のようになりました。終了を前にしてその一つ一つを整理しながら、研究室でお話しさせて頂いた時の何気ない内容や、院生室でのまじめな雑談が、これら資料に結びついた軌跡を有り難く感じています。何かアクティブな活動よりも、日々のこうした「対話の山」が一番の学びであったと今、確信できています。末筆ではございますが、二年間を通じ、自分勝手な会話に辛抱強くお付き合いくださいました先生方、そして学友の方々に深い感謝をいたします。ありがとうございます。

小田昌史

(兵庫県立姫路別所高等学校)

過ぎ去ってみればあつという間の二年間でした。この間本当に色々なことを学ばせていただきました。

最初は、講義で頻繁に出てくる言葉も知らないことがたくさんあつて大変でした。自分がいかに何も知らないまま教師をしていたかということも思い知らされました。しかし、二年経った今でも知らないこと分らないことだらけだということも痛感しています。授業を受ける生徒の気持ちや生涯学習の意義について実感することができました。また、多くの学校を訪問させて

いただいたことも大きな刺激になりました。高校だけでなく、小・中学校や特別支援学校、兵庫県外の学校を見学したことはとても勉強になりました。

素晴らしい仲間と共に、議論し学び合ったこの二年間の経験は、私にとって一生の財産となりました。今後はこれまでお世話になったすべての方々への感謝の気持ちを忘れず、大学院での学びを少しでも社会へ還元できるように全力を尽くしたいと思います。

柏崎勇人

(秋田県大館市立西館小学校)

教育改革真っ直中の現代、児童や地域の実態に応じて学校のミッションやビジョンを創造・共有し、いかに教育成果を高め、地域とともに特色ある開かれた学校づくりを推進するか、この二年間で学ぶことができました。マネジメント、俯瞰、エビデンス、アーティキュレーション、文脈、ダブルループ、システム思考：様々な言葉が今も頭の中を飛び交っています。直感と曖昧な経験で過ごしてきた教員生活に、理論という光を照らしていただきました。

学びの一端を「大館北秋田教頭会研究会」や「大館市教職員研究実践発表会」で発表する機会をいただき、成果を少しだけ還元できましたが、これからがスタートだと感じています。今後も研修成果を先生方に伝え、最終的には子どもたちの成長に少しでも結び付けられるよう、一緒に鋭意努力します。ご指導いただいた先生方、とも

に過ごした素晴らしい仲間、そして県教委、市教委、現任校の先生方に心より感謝申し上げます。

黒澤寛己

(京都市立塔南高等学校)

この二年間、兵庫教育大学大学院で充実した研究生活を送ることができました。以前、在籍していた大学院では勤務との両立で大変でしたが、今回は研究に専念することができました。時間を気にせず文献を読むことや、海外研修に何度も参加することができました。

また、健康面では単身寮での食事改善とトレーニング時間が確保できたことにより10kgの減量に成功しました。(フル馬拉ソンも完走できました！)

苦しかったことは、2013年9月16日の台風18号により自宅が被災したことでした。一階部分が床上浸水、被害状況は自宅半壊でした。精神的・肉体的、財政的にも厳しい状況となりましたが、先生方、上級生・同級生からの励ましを受けながら何とか乗り切ることができました。

これからは、大学院での経験を活かして研究と教育活動を継続していきたいと考えています。お世話になった先生方に感謝申し上げます。ありがとうございます。

高濱禎彦

(鳥取県境港市立第一中学校)

あつという間の二年間。強面の六人の教授の面接から一カ月し

ての入学式。初めて20人弱の同期に出会い、一人ひとり名前を読み上げられた。「みんな、結構、年くつてるな」と思ったのは、自分のことを分かっていなかったから(でも、みんなそうでしょう?)。

浪人時代の一年間、東京の予備校に通っていたが、それ以来の県外生活。共同トイレに共同風呂、共同台所の毎日は、四半世紀前の学生生活そのもの。違っていたのは、あの時ほど酒を飲まなかったことだろう。

浅野先生、大野先生、安藤先生、大変お世話になりました。専門的な話もさることながら、懐の深いお話に、いつも感銘していました。ありがとうございます。

日渡先生、人生のターニングポイントでの落雷のようなアドバース、感動しました。いまだ、言葉の意味を理解できない若輩者ですが、これからは御教授をお願いいたします。理解し切るには、二年では短すぎ、あと十年はかかると思いますので。。。

田中栄一

(鳥取県鳥取市立中ノ郷中学校)

この兵庫教育大学大学院での二年間は、私の人生においてかけがえのない経験となりました。実践的な方法論を学べたことはもちろんなのですが、「教育界や組織全体を俯瞰する見方」や「地域の思いと子どもへの育ちを第一とする構え」を身につけることができました。人は大事なときに「地が出る」と言われます。これからどんなポジションであつても、教育というアプローチで国や地域

のために貢献できる「地」を築くことができたのではないかと感じています。

入学前は、「自分のような者がやっていたのか」という不安が大きかったのですが、こうして無事に修了までこぎつけることができました。それもひとえに先生方のご指導と院生の皆さんの支えのおかげだと実感しています。本当にありがとうございます。

谷田安雄

(兵庫県丹波市立新温泉町立照来小学校)

思い出に残るフィールドワークの一つに先進校事例研究がある。私は、学校改善につながる学校評価を調査するために、岡山県の矢掛町を訪ねた。そこではトップが明確なビジョンを掲げ、ミドルによるトップダウン・ボトムアップが行われていた。また、教職員の経営参画意識が高く、評価に基づく話し合いが重視されていた。改善の歩みが見える学校評価だった。取材での一言が今も心に残る。

「子ども達の変容の姿があるから、毎日苦勞の連続でも頑張れる。」

教師の原点に戻ったような気がした。帰りの運転をしながら、矢掛のような地域と一体となった学校を目指そうと思ったことが蘇る。二年間の学びを振り返り、多くの思い出が浮かんでくる。兵庫大で学べて幸せに思う。

最後になりましたが、二年間、丁寧なご指導で修了まで導いてくださった兵教大の先生方に感謝いたします。そして、励まし、

元気を与え続けてくれた仲間にも感謝しています。

傳法谷肇

(北海道釧路郡釧路町立富原小学校)

修了にあたって、まずは、多くの学びを与えてくださった指導教官の日渡先生をはじめ、浅野先生、大野先生、安藤先生ありがとうございました。また、二年間の貴重な学びの機会をいただいた北海道教育委員会の皆様にも感謝いたします。

さて、二年間の学びにおいて最も重要であったと考えるのは、出会いです。著名な研究者や他県教育委員会の幹部、他県の情熱あふれる先生たちとの出会いはもちろんですが、やはり指導教官の日渡先生との出会いは私に大きな衝撃でした。日渡先生の発する言葉一つ一つが、私の教育観や指導観を揺さぶりました。特に、地方分権、地方創生の流れの中での都道府県教育委員会と市町村教育委員会、それぞれの在り方についての先生からの学びは、北海道へ戻ってからの仕事の芯となっていくと考えます。

最後に、今後も謙虚に学び続けていきます。二年間、ありがとうございました。

鳥羽道仁

(鳥取県立米子西高等学校)

長いようで短かった二年間を振り返り、今思うことを述べさせていただきます。

私自身の人生を振り返ると、「人間万事塞翁が馬」であ

ったような気がします。生まれや育ちは小さな漁村で、自分自身「口下手で荒い言葉」の生活が当たり前であったのに、就いた職業は教員でした。一人で行動することが割と好きなのに、これまで集団をまとめる立場になることがとても多くありました。常に自分

にない能力を身につけることが求められ、「大変だ。しんどい。」と思いつながら必死に過ごしてきたと思います。正直この二年間も、自分の持つていない「周りの者を納得させる術」を学ぶのに必死でした。しかし、自分には不向きで禍であると思つていても、もしかしたら将来何らかの福に転じることがあるものだと身をもって理解しているつもりです。

この二年間の学びは、必ずや福に転じることと思います。自分に関わつてくださったすべての方に感謝しています。ありがとうございます。

長尾均

(兵庫県立西宮北高等学校)

はじめの頃は講義やゼミの内容が難しく、課題をこなすのに一杯でした。しかし、一年後期の先進事例校の研究が自分にとって大きな転換点だったように思います。事例校の取り組みはその学校における成功例なので、現任校がそのまま真似てもうまくいきません。理論を通して分析することではじめて現任校への示唆を得られるのだと実感しました。

理論とは実践を翻訳し、新たな実践を生み出すためのものであるということはこの事例研究によ

って学びました。多くの学校や企業を訪問し、組織づくりや人材育成について学ぶことができたのも理論を通して組織を見ることができたからだと思います。

最後の改善プラン作成では、学んだことをアウトプットする難しさに苦しみました。そんな中、先生方のご指導と仲間のアドバイスが大きな助けとなりました。本当に感謝しています。今後は実践の場で、理論と実践の往還そして学び続ける姿勢を持ち続けたいと思います。

原田隆史

(山口県山口市立鴻南中学校)

兵庫教育大学の先生方、派遣元県・市教育委員会の皆様、校長先生を始めとする現任校の先生方、そして、共に学びを深めたP2の皆様、P1の皆様には、まずは、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

二年間の最大の収穫は、自分の考え方の癖や、自分の弱点を知ったことです。自分はどうしたいのかという意見がないこと、周囲にどう思われるかを気にし過ぎること、批判を怖れるあまり、議論に消極的であること。そのことに気付けたのは、共に学んだP2の方や大学院の先生方のお陰です。「今の自分があるのは、人様のお陰」。日渡先生の言葉の意味を、今痛感しています。

企業も学校も、大人も子どもも、組織は「人」が創るもの。様々な出会いを通じて、自分を含め、人は人により変わっていく。経営の根源とも言える「人を大切にす

る姿勢」を改めて大事にしていきたいと思えます。二年間本当にありがとうございました。

福田孝善

(兵庫県立太子高等学校)

兵教大では、多彩なカリキュラムのもと、先生方の熱心なご指導のお陰で、「教育実践高度化専攻」の名に相応しい高いレベルの学びを得ることができました。本当に有難うございました。さらに、フィールドワークにおいては、高校のみならず、小・中学校、特別支援学校など異校種への数多くの訪問の機会を得、自身の視野を広げることができました。

一方、インターンシップをはじめとして、管理職の先生方に終始懇切丁寧にご指導いただいたこと、また、現任校の先生方に温かく受け入れていただいたこと、そして、兵庫県教育委員会様には貴重な学びの機会を与えていただいたことに心より感謝申し上げます。特に、学校改革の只中にある現任校において、先生方とともに学校の将来像を模索できたことは、理論と実践の融合を図る意味でも、まさに生きた学びへと繋がりました。

私にとって、この二年間の学びは人生の宝となりました。現場に戻り、ここで得たものをできる限り還元できるように今後も頑張りたいと思います。



古屋光晴

(兵庫県立和田山特別支援学校)

この二年間は、大変有意義な時間でした。その中で良かったと思うことを三点挙げます。

まず、学びの視野を広げることができたことです。授業やゼミにおいて行われる様々な視点からの問題提起や指摘等を経験することで、自身の視野も広げることができたように思います。

次に、自分の中の課題意識を明確にすることができたことです。大学院で学びを深める中で、次第に自分が課題と想っていたことがはつきりとしてきたように思います。物事を鳥瞰的に捉えることができるようになった効果なのではないかと思っています。

最後に、素晴らしい方々と出会うことができたことです。先生方をはじめ、共に学ばせていただいた全ての方から多くの刺激を受け、自己変容を促す機会となりました。

この兵教大の学びを今後に生かしていきたいと思えます。どうもありがとうございました。

松岡千鶴

(山口県周南市立岐陽中学校)

この兵庫教育大学で過ごした二年間は、素晴らしい先生方と良き仲間に出会え、更に様々な人・様々な学びに出会うことができ、本当に有意義で充実した日々でした。

この間、学校教育に対して「何が必要なのか」「何をすべきか」「何のために学ぶのか」等を改めて考えることができました。

て考えることができました。

今後は、ここで出会った人とのつながりを大切に、学んだことを活かすことが兵庫教育大学や派遣元県教委等への還元であるとともに、自分の使命でもあると考えます。また、そのためにも、常に「百歩尚百歩」の精神で学び続けようと思えます。

最後に、この二年間、ご指導いただきました学校経営コースの浅野先生・日渡先生・大野先生・安藤先生に心よりお礼申し上げます。「本当にありがとうございました」

また、先生方のご健康・ご多幸と兵庫教育大学の益々の発展をお祈りいたします。

山崎信一

(兵庫県立猪名川高等学校)

この二年間、ありふれたフレーズしか浮かびませんが、あつという間に終わってしまったように思えます。今思えば、もう少し、全国へ視察に行っておけばよかったと後悔しています。

二年前の歓迎会の時、「なぜ先生は、私たちを見捨てて、大学へ行くのですか」と言って、号泣されたので、現任校に戻りたいです」と、挨拶したのを昨日のように思えます。その生徒も無事卒業していききました。そして、私も無事修了することができました。これも学校経営コースの先生方、P2のみなさんのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

この二年間の学び、そして、人との出会いをこれからの教員生

活の「暗黙知」として活かし、生徒も教員も「来てよかった学校」づくりに励みたいと思えます。

(写真前列左より)

- ・日渡 円 教授
- ・上口 孝之 事務局長
- ・加治佐哲也 学長
- ・浅野 良一 教授
- ・大野 裕己 准教授
- ・安藤 福光 准教授

今後の更なるご活躍を願って…!



平成27年2月1日 改善プラン発表会会場にて

「編集後記」

3月に入り、二年生が院生室の片づけをする様子を目にするたび、一年生は何とも心もとなない気持ちになっていました。

一年間の中で語り合う機会は限られていました。しかし、一歩先を確かな足取りで歩いている先輩が「近くに居てくださる」ということが、一年生にとってどれだけ大事だったかと改めて実感しています。日常、何気なく問いかける言葉の質の高さ、ともに学び合う姿勢として示す同僚性の高さ等、最後まで学ばせていただきました。

単年度でなく、二年をかけた先輩・後輩がともに学び、つながり、成長できる環境は兵庫教育大学大学院の強みです。今後、各地で取り組まれる実践も、それ自体は一人一人のものであります。しかし、ともに学んだ者たちは、その活躍を我がことのように喜び、応援し、各自の学びとしていくことでしよう。

「嬉望」が、そうした「ともに励む仲間」をつなぐ広報紙となるよう、今後も編集担当者一同、努めて参ります。